

「いちぶんのいち」 ～D60 61(実機)補修工事～

遂に「いちぶんのいち」鉄道模型も手掛けるようになりました(笑)

福岡・芦屋町で静態保存されているD60 61号機(勿論、実機です)の補修工事を汽車倶楽部・保存会の方で行う事となりました。

このコーナーでは、その様子をダイジェストでお伝えしてきたいと思います。



着工前。
これまで9600形(59647号機)やD51形(225号機)の補修実績がある汽車倶楽部ですが、このD60形はそれらと比較しても規模・状態などにおいて「難工事」になりそうとの事。

傍目にもだいぶ傷んだ感じですが、これから作業を進めるにつれ、その「実態」が次々と明るみに出る事に・・・



まずは作業準備から。
周囲をフェンスで囲い、足場を組んでいきます。



ドーム部分。
下地が露わになり、継ぎ目部分は「穴」が開いています

サビを丁寧に落とし、さび止め塗料を塗っていきます



さび止め塗料が塗り上がった所です
まだドーム1個だけ、こんな作業がこれ以降、延々と
続く事になります



こちらは煙突。
サビ落としを行った所ですが、腐食が進行しており
ド派手に穴があいてしまっています
こうなると「いっその事、新しく作ってしまえば」とお思い
かも知れません。
が、「オリジナル」へのこだわりから、可能な限り現役
当時の構体を活かして修復しようという考えで作業を
進めて行きます。

従って、非常に手間の掛かる作業となります。



サビ落とし／さび止め塗装を終えた後、煙突の穴を
FRPとパテで補修します
写真のようにFRPで穴を塞ぎ、この上にパテを盛って
いきます。



FRPの上にパテを盛った所で、表面を削り出して仕上げていきます。



下地(さび止め)を塗り終えた煙突部分です
大きな穴がポツコリと開いていたとは思えないでしょう！

しかし、このように腐食の進んだ場所は多岐に渡り、同様な作業を何度も行わなければなりません・・・



キャブ(運転室)屋根の補修に取り掛かりました
この辺りからだんだん、痛みの激しい箇所が現れてきます



上の続きですが、腐食の進み具合はご覧の通り。
今にも抜け落ちるのではないかと思うような痛々しい状態です。

キャブ側面のハクリ作業。
構体の地肌がキレイに出てきていますね！



サクサク進んでいるように見えますが、実際は塗膜が
思いのほか厚く、グラインダー研削だけでは作業が
はかどらなかったそうです

そこで、「バーナー」を使用して塗膜をある程度まで
落とした後にグラインダーをかけるという方法を取って
います



元の塗膜がどんな状態かという、写真のような感じ
です。
幾重にも塗り重ねられたのが分かるかと思います



こちらは、煙室扉のサビ落とし作業の様子です
こうやって、グラインダーを使い手作業で丁寧にサビを
おとして行きます



デフ(徐煙板)のサビ止め塗装の様子です
手塗りで地道に塗っていきます

元の塗装やサビなどを、前述のように丁寧にしっかり
落としていないと、ココで苦勞する事になります

「ベースをキチンとしないといけない」のは模型の世界
も同じですが、規模が違い過ぎる…



煙室扉とデフ(除煙板)のサビ止め塗装後です
煙突・2個のドームもサビ止めまで終わっています



新年を迎えるにあたり、「飾り」をつけておきました

D60で現在保存されているものはこの61号機も含め
僅か4機。うち3機が福岡県内にあります。
中でもこの61号機は、4機の中で唯一「門鉄デフ」を
装着している、非常に貴重なカマです。

今回こうして本格的に修復する事で、次の世代に歴史を
伝えて行ければ良いなあ、と思います。



(フレーム表示が出来ている場合は、使用しないで下さい)